

令和 8 年度
博物館等施設 企画展
企 画 書

軽井沢町教育委員会

目 次

項目	ページ
軽井沢町歴史民俗資料館企画書	1
追分宿郷土館企画書	3
堀辰雄文学記念館企画書	5
軽井沢町植物園企画書	7

令和8年度 歴史民俗資料館 企画書

○特別展

1. 主 旨

1947（昭和22）年に新制軽井沢中学校と西部小学校が開校し、再来年度で80年を迎える。また、1956（昭和31）年には東部小学校と中部小学校も開校し、来年で70年を迎える。本展では、小学校や中学校をはじめとした学校教育を中心に、夏期大学などの軽井沢町特有の多様な学びの場にも焦点を当て紹介する。

2. 名 称

「軽井沢町立東部小・中部小開校70周年記念 学ぶ・教える展」（仮題）

3. 期 間

令和8年7月15日（水）～11月15日（日）

※11月2日（月）、11月9日（月）休館

4. 内 容

展示は、大きく3つのテーマで構成される。

第一に、小学校や中学校を中心とした学校教育の歩みを振り返る。写真や教科書といった資料を基に、各時代の教育の様子を紹介する。第二に、大正7年に創設された軽井沢夏期大学によって、生涯学習の面からみた学びの様子をたどる。第三に、芸術自由教育講習会による文学者と地域の学びとのかかわりの様子を紹介する。

特に第一のテーマでは軽井沢町に住む地域の人々の暮らしに密着した展示になる事が考えられるため、それぞれの世代に懐かしさや親近感を覚えてもらえるような写真パネルや文書資料などを展示する予定である。

5. 関連事業

特別企画展関連講演会

○秋季特別展

1. 主旨

地域住民、別荘所有者、観光客に軽井沢にゆかりのあるフランス人浮世絵師であるポール・ジャクレーを知ってもらう機会とする。また、軽井沢における芸術・文化、そしてそれらが生まれた社会的、歴史的背景に触れることで、地域や時代の特性を理解することを目指す。毎年度異なる作品を展示することにより、ポール・ジャクレーが手掛けた多様な作品の存在を知ってもらいたい。

2. 名 称

「ポール・ジャクレー展～自然と暮らしを見つめて～」(仮題)

3. 期 間

令和8年9月15日（火）～11月15日（日）

※11月2日（月）、11月9日（月）休館

4. 内 容

ポール・ジャクレーが手がけた多色摺木版画20点余りと、ポール・ジャクレーの写真パネルを数点展示する。令和8年は5回目の開催であり、原則として今まで展示されたことのない作品を中心に展示する。また、毎年テーマを設定しており、テーマに沿った作品の展示を行う予定である。

5. 関連事業

旧三笠ホテルのギャラリーでのポスター等の展示

令和8年度 追分宿郷土館 企画書

○特別企画展

1. 主 旨

天明3年の浅間山噴火に関する絵図の複製を作成し、これらを中心として紹介する。江戸時代中期に発生したこの噴火はおよそ3ヶ月にわたり続き、こうした様子を描いた絵図が多数作られた。噴火にかかわらず、浅間山は山麓に位置する軽井沢の歴史と深く関わっていることから、同テーマで展示する。

2. 名 称 追分宿郷土館特別企画展

「浅間山・夜分大焼」(仮題)

3. 期 間 7月25日(土)～12月末(予定)

4. 内 容

今回作成する噴火絵図を中心に展示する。また、史料をもとに年表や解説パネルを作成し、当時の噴火の様相や被害について説明する。

噴火以外でも、浅間山に関する資料を用い、軽井沢と浅間山、というテーマに基づいた紹介を行う。

5. 関連事業

天明の浅間山噴火をテーマとした一般向け教養講座、小中学生向け火山教室を開催。

○企画展①

1. 主 旨

追分ゆかりの書家 稲垣黄鶴が没した翌年の平成19年から、黄鶴の書斎に似ている離山公園旧雨宮邸新座敷で、遺族の協力のもとテーマを決め企画展を開催している。リピーターも多いことから、継続して開催する。

2. 名 称 「稻垣黄鶴 書の世界」(仮題)

3. 期 間 7月1日(水)～10月31日(土)(予定)

4. 内 容

郷土館に収蔵している作品からテーマを決めて漢字・かなの作品から額装・軸装・屏風・折帖・色紙、遺愛品などを展示する。

○企画展②

1. 主 旨

例年、小学3年生の社会科単元「昔の道具」の学習時期に合わせて資料に触れるこのできる箇所も設置したコーナー展示を行っている。

本年は、「昔の道具」を展示しつつ、追分宿を中心に「馬子」「駄賃」に焦点を当てた展示を併せて行う。

2. 名 称 ①「江戸時代・馬子たちの仕事－駄賃の相場から」（仮題）
②「昔の道具」（仮題）

3. 期 間 令和9年1月～3月（予定）

4. 内 容 2つのミニ企画展を開催。

①所蔵資料から、明治期以降に使用された道具等展示。

②版本や古文書から、馬子たちの仕事や駄賃の相場を中心に、江戸時代の軽井沢、とりわけ追分宿を紹介する。

令和8年度 堀辰雄文学記念館 企画書

○特別企画展

1. 主 旨

文芸雑誌は、堀辰雄の作家としての活躍と成長において非常に重要な場であった。堀は、種々の同人雑誌（文芸雑誌）を通して海外文学を翻訳・紹介たり、文学者とのネットワークを形成し、芸術派の文学の基盤を育成したりした。特に、昭和21（1946）年に長野県小諸市で創刊された季刊誌「高原」は、軽井沢とその近辺にゆかりのある作家が中心メンバーとなつた同人雑誌である。

本企画展では、堀の携わった雑誌や関連する文学者の書簡等を展示し、同人雑誌を通じた堀辰雄の功績と、軽井沢における文学者たちの交流を紹介する。

2. 名 称 「堀辰雄と文芸雑誌」（仮題）

3. 期 間 7月11日（土）～12月27日（日）（予定）

4. 内 容

収蔵資料の初出雑誌・書簡・初版本・写真・遺愛品などの資料やマップ・解説パネル等を展示し、雑誌を通じた堀の功績や軽井沢における文学者の交流等を紹介する。

5. 関連事業 緑陰講座、堀辰雄を語る会（講演会）

○企画展

1. 主 旨

『堀辰雄詩集』は、昭和 15（1940）年に山本書店から出版された、堀辰雄の詩 3 篇と深澤紅子の挿画を収める堀辰雄唯一の詩集である。そのうちの「天使たちが……」で始まる詩には軽井沢が描かれている。また、本詩集は、立原道造と追分の関係を語る上で欠かせない位置を占めている。

令和 7 年度に新収蔵予定の『堀辰雄詩集』には、堀による署名と「軽井沢にて」の文言が添えられている。本企画展では、この『堀辰雄詩集』を中心に、詩の初出雑誌、軽井沢・追分にゆかりのある文学者たちの書簡、深澤紅子による挿画等を展示し、『堀辰雄詩集』の頃の堀の文学世界と軽井沢を紹介したい。

2. 名 称 「『堀辰雄詩集』の世界」（仮題）

3. 期 間 3 月 19 日（木）～7 月 7 日（火）（予定）

4. 内 容

『堀辰雄詩集』B 版（山本書店、昭和 15 年）や書簡・メモ・初出雑誌・初版本・写真等の収蔵資料を展示し、『堀辰雄詩集』の作品の背景や、堀辰雄や他の文学者と軽井沢・追分との関係、堀辰雄の文学生活の出発点としての詩の世界を紹介する。

5. 関連事業 野いばら講座